

渋谷が上昇率最下位

マンション価格 分譲

都心6区、民間調べ 港区トップ61%

マンション関連コンサルティングのトータルブレイン(東京・港、久光龍彦社長)は2000年から昨年までの分譲マンション平均価格調査をまとめた。それによると、

調査は00～04年の「旧価格帯」と、09～10年に

区などに比べブランド力が劣るため売れにくかった」と分析する。

文京区は25%上昇と堅調だった。供給量が少なく、需給バランスが良好だった。ただ同区北部の白山・千石・本駒込エリアでは、価格上昇が成約率の低下を招く傾向が出ているという。デベロッパー各社はコンパクト系マンションの供給に切り替え、単価上昇の吸収を

かけての「現価格帯」の分譲マンションの平均単価調査を分析。価格上昇率では港区の単価が61%上がって首位となった。一方、渋谷区は10%と低迷。久光社長は「リーマンショック以前に実施した強気の値付けが、港

狙う傾向がある。

新宿区は20%上昇。全体として値動きは小幅だったが、新宿御苑で供給された高級マンションが

価格上昇をけん引した。駅から徒歩5分以内の物件が7割を占め、利便性が高いことも人気の理由だという。